

年度/Academic Year	2020
授業科目名/Course Title (Japanese)	経験から学ぶアクションリサーチ研究 (入門)
教員名/Instructor (Japanese)	内山 研一
講義概要/Course description	
<p>アクションリサーチとは、理論を実践に応用し、その実践の中での学びからまた理論を更新していくという、いわば理論と実践を結びつけ橋渡しする研究方法論である。またそのプロセスを通して研究に関わる当事者たちの問題状況に対する見方・考え方を革新し、同時に問題状況自身にも改善をもたらすことができる現場の学でもある。そのとき重要になってくるのは、状況に行為的に関ったときに触発されてくる人々の思いであり、その思いの共有をベースにした関わる人々の世界観の同居（アコモデーションという）である。それは形式知よりも暗黙知に関わる経験の知（臨床の知）のマネジメントであり、換言すれば「経験から学ぶ」ための方法論でもある。本授業は、このようなアクションリサーチの中でも特に学問的方法論的に厳密性を担保する、ソフトシステム方法論（SSM）を情報システム分野である程度経験を積んだ社会人学生に対して、情報システムの関連で授業する。</p>	
達成目標/Course objectives	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・SSMの理論の理解と、その簡単な応用を自分の仕事の中でできるようにする。</li> <li>・さらなる本格的研究のための基礎知識を理論・実践面の両方から教授する。</li> </ul>	
授業計画/Lecture plan	
講義回	
1	講義：オリエンテーションと理論
2	
3	
4	
5	演習：リッチピクチャーと発表
6	学習者がリッチピクチャーを作成し、当事者の問題状況の捉え方を理解する。双方向の議論を行う。
7	演習：アコモデーション 思いのモデルの作成、発表(1)
8	学習者が、意図的活動システムの基本定義と概念的活動モデルを作り、思いの共有を行う。双方向の議論を行う。
9	
10	演習：アコモデーション 思いのモデルの作成、発表(2)
11	学習者が、意図的活動システムの基本定義と概念的活動モデルを作り、思いの共有を行う。双方向の議論を行う。
12	
13	演習：アコモデーション 思いのモデルの作成、発表(3)
14	学習者が、意図的活動システムの基本定義と概念的活動モデルを作り、思いの共有を行う。双方向の議論を行う。
15	
授業方法/Method of instruction	
SSMの理論とその簡単な演習（モデル構築）、ミニプロジェクトとその発表、ISのニーズ分析、リスクマネジメント、社会イノベーション構想作り、顧客（エンドユーザ）やベンダとの共創方法論、などの応用分野のトピックを取り上げ、講義、演習、発表、討論などを取り混ぜた形態で実施する。	
成績評価方法/Evaluation	
授業への貢献(50%)、および課されるレポート(50%)を評価する	
参考書/Reference books	
内山研一、「現場の学としてのアクションリサーチ -ソフトシステム方法論の日本的再構築-」、白桃書房	